



教会報ほんじよ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732

<https://www.catholic-honjyo-church.org>

INDEX

- 「シノドスの本所教会」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他



「シノドスの本所教会」

主任司祭 パウロ 豊島 治

五月の挨拶を申し上げます。

聖母月です。

教会にも旅行中の方々の往来がみられます。幼稚園のセキユリティの関係でしょうか、中には入らなくても、三つ目通りに面している門横の聖母子像に大きなカバンを置いて膝つき懸命に長時間祈っている方々をよくみかけます。

屋内にあるマリア像に対して、屋外にあるご像は外向きに備えらえているイメージがあります。

昔、叙階前に長崎教区の青砂ヶ浦教会で主日のミサで奉仕をしました。その教会の聖母像も海を向き船を守っておられました。

六年前、潜伏キリシタンについて報道してくださったテレビ局TBSは、五月からSDG'sキャンペーン「地球を笑顔にするウイーク」を行っていています。教会の周りもプラスチックのみの収集日が四月から指定されました。私が使っているゴミ置場では初日は一袋でしたが、今は他の種類の日と同じくらいの量がおかれています。なるべく削減のための工夫はしていますが、自分は生きていくだけでこんなに地球に負荷をかけてしまっているのだと感じながらゴミ出しをしています。

マリアさまは海の星（ステラマリ）とも呼ばれます。この海にも小さくなったゴミが生態系に循環してまた人間にも影響している。そのことを教皇さまも述べておられる。信仰とは私たちの行いを伴うものであり、独自のものではなく、社会とも共同するものなのでしょう。

同じく六年前、聖霊降臨の後の月曜日に「教会の母聖母マリア」を制定しました。今年は今年二十日がその日になります。

コロナ感染予防について気をつかいながらも、カトリック東京大司教区はレベル2の防止を明記してあります。本所教会も今後の教会の在り方について話がでるようになりまして。

コロナ明けの教会についてよりもこれから先の教会の姿について考えての話です。

私をはじめ思ったのは長くお務めになった司牧評議会議長会長の交代に対して新会長を選ぶ指針になるものが分かりにくかったことがはじまりでした。慣れた疑問点に封がされていたこともあったでしょう。

一人ひとりの考えは異なります。評議会議に参加された皆さんの様々な思いが伝わりました。

コロナから先の教会像はどうなるのか、教皇さまは「シノドス」をもって時間をかけてすすめていかれていきます。最近はこの進め方を「霊的会

話」という手法でいわれています。先日カトリックの教職にある方の集いでこの「シノドスの方法から学ぶ」と題されて会議を導いておられました。

教会のことを決めるといっても教会の中で完結させるという目標をもってしまうと簡単ではありません。

教皇さまの回勅などメッセージがあります。司教さまが伝える宣教司牧指針をはじめとする指針があります。教皇庁が定める「教会法典」もあります。法人本部が主催する財務担当者会議で示されるマニュアルもありません。そこには各種行政の法律・条例もからみまます。

でも、私はその問題に向き合うときこのセリフを思い出すのです。

『人はいつも組織をつくりたがる。私は神さまのひとつの鉛筆にすぎないのに』

昔放映されたオリビア・ハッセー主演の「マザーテレサ」の映画の一部です。

神とつながりがなければ私たちはなにもできないし、前に進めないのです。社会にあって神の旗印である教会という船。大海原を進む以上、困難は普通の事。

歴史の中で人類は多くの困難にあうたびに「マリアさまのご出現」のニュースがありました。

「ファチマの聖母（十三日）聖母の訪問（三十一日）」を含めた聖母の記念日がある五月。

とりつぎの祈りをささげましょう。